

高等学校

国語

(国語総合／現代文)

【詩の鑑賞】

「サーカス」

中原中也

中原中也 略年表

西暦	年齢	軌跡	主な出来事
一九〇七	0歳	誕生	
一九二三	16歳	ダダイズムに傾倒し始める	日露戦争 関東大震災
一九二四	17歳	フランス詩への興味を抱く	
一九三三	26歳	「ランボオ詩集」を刊行 上野孝子と結婚	満州事変
一九三四	27歳	長男文也が誕生 詩集『山羊の歌』を刊行	
一九三五	28歳	詩誌「歷程」の同人になる	
一九三六	29歳	長男文也が死去 次男愛雅が誕生	
一九三七	30歳	結核性脳膜炎のため逝去	日中戦争
一九三八		次男愛雅死去 詩集『在りし日の歌』が 友人らにより刊行される	

一九三〇年代に入ると、詩人達は、雑誌「四季」や詩誌「歷程」で活躍するようになった。中原中也はどちらにも参加し、作品を残している。「歷程」は創刊する際の一員でもあった。

○詩誌 「歷程」

一九三五年創刊。人生派的な詩が多い。生前は無名に近かった宮沢賢治を世に送り出した雑誌。

・主な詩人と代表作

草野心平 「蛙」

宮沢賢治 「春と修羅」



宮沢賢治

出典：Wikipedia

○雑誌 「四季」

一九三四年創刊。口語自由詩が失った音楽性の回復と、新しい叙情を目指した。

・主な詩人と代表作

三好達治 「艸（くさ）千里」

伊藤静雄 「わがひとに与ふる哀歌」

汚れつちまつた悲しみに

汚れつちまつた悲しみに

今日も小雪の降りかかる

汚れつちまつた悲しみに

今日も風さへ吹きすぎる

汚れつちまつた悲しみは

たとへば狐の皮裘

※かほごろも

汚れつちまつた悲しみは

小雪のかかつてちちこまる

汚れつちまつた悲しみは

なにのぞむなくねがふなく

汚れつちまつた悲しみは

倦怠のうちに死を夢む

汚れつちまつた悲しみに

いたいたしくも怖気づき

汚れつちまつた悲しみに

なすところもなく日は暮れる……

汚れつちまつた悲しみに

語釈

※ 皮裘（かはごろも）

狐の脇の下の白毛皮で作った衣服

解説

- ・ **七五調**を基調とするリズム
- ・ 長男誕生の一九三四年発刊『**山羊の歌**』所収
- ・ 中也の作品の中でも特にファンが多い。
- ・ また、多くのミュージシャンによって曲が付けられている。

朗読してリズムを
楽しんでみよう♪

次はいよいよ
「サーカス」です！

サーカス

幾時代かがありまして

茶色い戦争ありました

幾時代かがありまして

冬は疾風吹きました

幾時代かがありまして

今夜此処※ひでの一※ひと殷さ盛かり

今夜此処での一と殷盛り

サーカス小屋は高い梁※はり

そこに一つのブランコだ

見えるともないブランコだ

朗読が聴けます→



頭倒さかさに手を垂れて

汚れ木綿の屋蓋やねのもと

ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん

それを近くの白い灯が

安値やすいリボンと息を吐き

観客様はみな鰯

咽喉のんどがなります牡蠣殻かきがらと

ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん

屋外やがいは真ツ闇 闇の闇

夜は劫々※こがしこがと更けまする

落下傘奴※らっか がさめのノスタルヂアと

ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん

朗読が聴けます→



一と殷盛り（ひとさかり）

一つのにぎわい。

梁（はり）

屋根を支える材木。ここでは、サーカス小屋の高い天井を支える材木。

劫々と（こふこふと）

長い年月。ここでは、夜が深まる様子。

落下傘（らっかがさ）

パラシュート。ここでは、サーカス小屋が落下傘の開いた形をしていることの比喩。

ノスタルチア (nostalgia)

英語)

郷愁。

特 徴

・ 七五調

・ 比喩表現

・ 擬態語（オノマトペ）

・ 反復

第一連〜第三連

サーカス

七五調

幾時代かがありまして

茶色い戦争ありました

日清・日露戦争など、日本が行った戦争

幾時代かがありまして

冬は疾風吹きました

つらく厳しい事件・時代

幾時代かがありまして

今夜此处での一と殷盛り

今夜此处での一と殷盛り

反復

反復

サーカス小屋がやってきた！
これから一時のにぎわいだ！

「幾時代かがありまして」

「茶色い戦争ありました」
「冬は疾風吹きました」

「今夜此処での一と殷盛り」

何年も時が流れた。

戦争もあり、つらく
厳しい暗い時代
も続いた。

だが、サーカス小屋
がやってきてい
る今は、これから
一時の楽しい時間
を過ごそう。

※

しかし、サーカスは恒久的
なものではないことから、物
悲しさも滲ませている。

第四連く第七連

サーカス小屋は高い梁

そこに一つのブランコだ

見えるともないブランコだ

見えるか見えないか分からないくらい高い位置にある
頭倒さに手を垂れて

汚れ木綿の屋蓋のもと

ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん

テントのサーカス小屋

擬態語

それを近くの白い灯が

安値いりボンと息を吐き

比喩表現

観客様はみな鰯

咽喉がなります牡蠣殻と

ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん

「汚れ木綿の屋蓋」
「安値いりボン」

「鰯」

「牡蠣殻」

「ゆあーん ゆよーん
ゆやゆよん」

サーカス小屋のわ
びしい感じ。

空中高くにあるブ
ランコから見える、
同じように並んだ
観客。勤勉な民衆
を表す。

ブランコを見つめ
る観客の様子。

空中高いブランコ
が、大きく揺れる
様子を、四・四・
五音で表現。

※ サークス小屋の天井が高く、
ブランコが高い位置にあるこ
とを強調。

段落を急に
下げている

サーカス小屋

屋外は真ッ闇 闇の闇
夜は劫々と更けまする
落下傘奴のノスタルヂアと
ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん

※ 視点の変化を表す

＝
読者に視線を変えさせる

「屋外は真ッ闇 闇の闇
夜は劫々と更けまする」

「落下傘奴のノスタルチア」

「ゆあーん ゆよーん
ゆやゆよん」

どんだん夜が更けて、真ッ暗になる外は、現実世界。そんな中にあるのがサーカス小屋。

サーカス小屋の中の賑わいは、作者の若き日（過去）であり、郷愁そのもの。

心の中の夢のような世界に浸って不安定に揺れる思い。

※

暗闇に捕らえられて抜け出せない作者は、ノスタルチアの中で生きていくしかない。

★ 声に出して読み、詩のリズムを
楽しもう。

★ ブランコの揺れを「ゆあーん
ゆよーん ゆやゆよん」と表現し
た中也の世界観を味わおう。

★ 「茶色い戦争」「白い灯」
「真ツ闇 闇の闇」など、表現か
ら情景を想像しながら朗読しよう。

★ 自分の思いや置かれた状況など
を詩に表してみよう。

○こちらも覗いてみませんか・・・

https://www2.nhk.or.jp/school/movie/outline.cgi?das_id=D0005150054_00000

(NHK for School)

高等学校

国語

(国語総合／現代文)

【詩の鑑賞】

～ 「サーカス」

中原中也

～

終